

# 2023年度 三田祭論文案内

経済学部ゼミナール委員会

## 【目次】

I. はじめに	p.3
II. 三田祭論文とは？	p.4
III. 三田キャンパスマップ	p.5
IV. 論文発表タイムスケジュール	p.6
V. 経済学部三田祭ブース設置一覧	p.7
VI. 各研究会案内	p.11

# I. はじめに

経済学部ゼミナール委員会 三田祭担当

第 65 回三田祭「経済学部 室内ゼミナール企画」にご来場頂き、ありがとうございます。  
三田祭論文とは、各研究会が三田祭に向け作成する論文のことで、本年度も 40 を超える研究会が参加しております。研究対象は様々で、論文の題材も実に多様です。各研究会によるブース展示・合同プレゼン会を通して皆様に三田祭論文をお届けいたします。是非たくさんの研究会のブースを巡って頂き、私たちの研究発表をご覧ください。経済学の面白さや、その可能性を少しでも感じていただけたら幸いです。

また、研究会選びに悩んでいる 2 年生の皆さんにとっても、多くの研究会を比較することができる良いチャンスです。ぜひ研究会の雰囲気や学習内容をじっくり比べることができるこの貴重な機会を有意義に活用し、興味のある分野の発見に役立ててください。

最後に、この冊子には各研究会の発表内容やプレゼンのタイムスケジュールなどを記してありますので、ブースを回る際のガイドブックとしてご活用ください。

## この冊子以外での三田祭論文に関する情報発信について

経済学部ゼミナール委員会では以下の媒体で研究会・三田祭論文の内容紹介を行っています。

- 経済学部ゼミナール委員会 HP

<https://keizemi-keio.info/>

- 経済学部ゼミナール委員会 Instagram

[http://instagram.com/keizemi\\_official](http://instagram.com/keizemi_official)

- 2023 年度三田祭論文に関するご質問は以下のメールアドレスまでお願いいたします。

[keioeconomicscommittee@gmail.com](mailto:keioeconomicscommittee@gmail.com)

## Ⅱ. 三田祭論文とは？

三田祭論文とは、慶應義塾大学の学園祭である三田祭のために執筆した論文のことを指し、各研究会の日頃のゼミ活動の結晶です。どの研究会もテーマ、内容ともに個性に富んだものを作成しています。

経済学部では以下の二つのかたちでご来場の皆様に三田祭論文をお届けします。

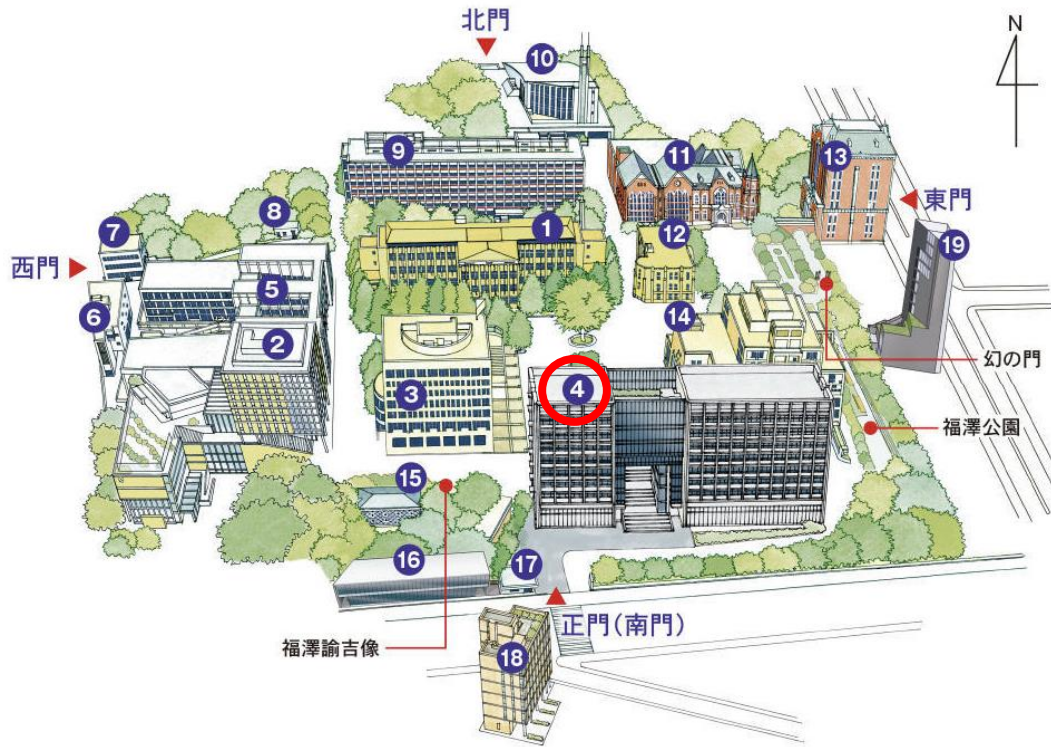
### 1. ブース展示

研究会ごとにブースを設け、ポスターの掲示や実際の論文を用いて直接説明を行います。

### 2. 合同プレゼン発表会

例年経済学部のみが行っている企画です。三田祭期間の4日間を時間で区切り、来場者に対しプレゼン発表をする時間を設けています。

### Ⅲ. 三田キャンパスマップ



各研究会のブース・プレゼン発表会ともに④の南校舎にて行われます。

各研究会ブース：南校舎の各教室

論文プレゼン発表会（経済学部ゼミナール委員会本部）：南校舎 3階 4 3 5 教室

## IV. 論文発表タイムスケジュール

プレゼンを行う教室は南校舎3階の435教室です。

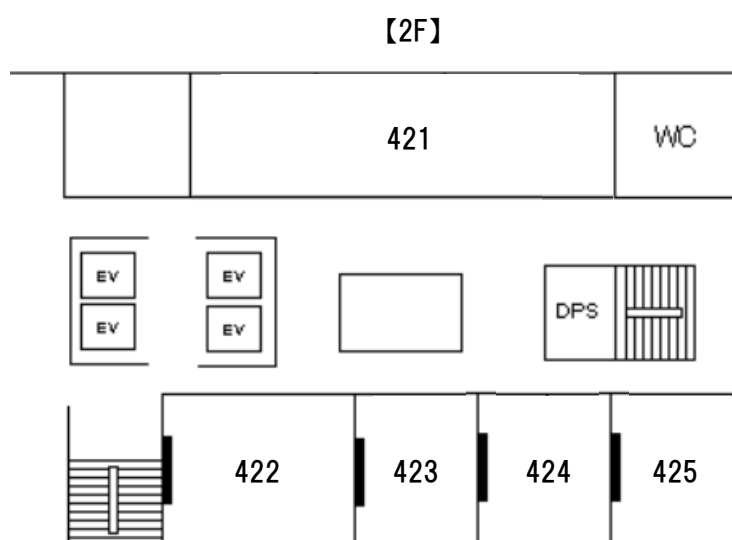
開始	終了	11/23 (木)
10:30	10:55	小林慶一郎研究会
11:05	11:30	飯田恭研究会
11:40	12:05	小西祥文研究会
12:15	12:40	津曲正俊研究会
12:50	13:15	玉田康成研究会
13:25	13:50	小橋文子研究会
14:00	14:25	寺井公子研究会
14:35	15:00	土居丈朗研究会
15:10	15:35	三嶋恒平研究会

開始	終了	11/24 (金)
10:30	10:55	一上響研究会
11:05	11:30	星野崇宏研究会
11:40	12:05	長倉大輔研究会
12:15	12:40	松沢祐作研究会
12:50	13:15	佐藤裕己研究会
13:25	13:50	白井義昌研究会
14:00	14:25	中妻照雄研究会
14:35	15:00	石井太研究会
15:10	15:35	沖本竜義研究会

開始	終了	11/25 (土)
10:30	10:55	直井道生研究会
11:05	11:30	駒村康平研究会
11:40	12:05	坂井豊貴研究会
12:15	12:40	大平哲研究会
12:50	13:15	赤林英夫研究会
13:25	13:50	藤原一平研究会
14:00	14:25	大沼あゆみ研究会
14:35	15:00	笹原彰研究会
15:10	15:35	石橋孝次研究会

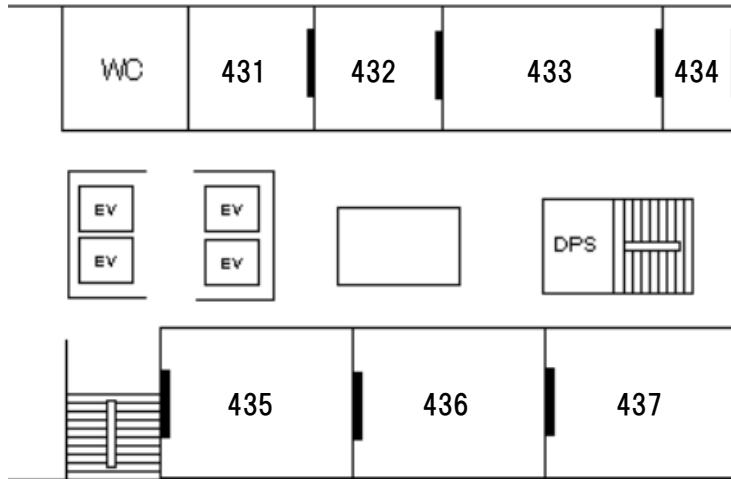
開始	終了	11/26 (日)
10:30	10:55	河端瑞貴研究会
11:05	11:30	山田裕之研究会
11:40	12:05	熊倉和歌子研究会
12:50	13:15	秋山裕研究会
13:25	13:50	加島潤研究会
14:00	14:25	中嶋亮研究会
14:35	15:00	大垣昌夫研究会
15:10	15:35	神田さやこ研究会

## V. 経済学部三田祭ブース設置一覧



2階	
422	大垣昌夫研究会
	津曲正俊研究会
	山田浩之研究会
	星野崇宏研究会
	白井義昌研究会
423	清田耕造研究会
	直井道生研究会

【3F】



3階	
431	三嶋恒平研究会
432	秋山裕研究会
	藤原一平研究会
433	小橋文子研究会
	神田さやこ研究会
435	三田祭発表会会場
436	河端瑞貴研究会
	寺井公子研究会
	中嶋亮研究会
	沖本竜義研究会
	松沢裕作研究会

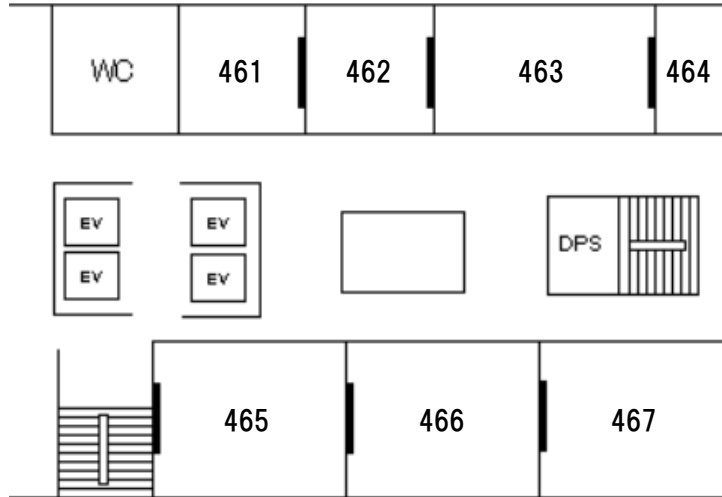


【4F】



4階	
441	小林慶一郎研究会
	土居丈朗研究会
442	玉田康成研究会
443	長倉大輔研究会
	赤林英夫研究会
	中妻照雄研究会
445	一上響研究会
	石井太研究会
	大平哲研究会
	牧野邦昭研究会

【6F】



6階	
462	石橋孝次研究会
	駒村康平研究会

## VI. 各研究会案内

### 赤林英夫研究会

- ・ブース設置場所

南校舎 4階 443 教室

- ・パート名とテーマの概要

赤林英夫研究会では、2022年の秋学期に入ゼミした現在4年生のPearl生（以下、4Pとする）と、2023年の春学期に入ゼミした3年生のA方式/B方式の学生(以下、3Pとする)が三田論を執筆した。

#### 4P研究概要：

This study assesses the economic efficacy of tertiary education in shaping future occupational prospects. Tertiary education encompasses post-secondary institutions, including colleges, universities, vocational schools, and technical training centers (World Bank, 2021). It is integral to a nation's socioeconomic development, acting as a catalyst for growth, affluence, and societal welfare. Simultaneously, tertiary education functions as a long-term investment, with returns materializing gradually over time, necessitating the consideration of its substantial costs.

#### 3P研究概要

フレキシブルな雇用形態で働いている人は、そうでない人よりも学び直しにかかる時間が長くなるのではないかという仮説を、2019年JHPSの結果データを用い、Rを用いたデータ分析で検証した。

- ・テーマの動機と注目点

#### 4P

Whether the social and personal benefits produced by tertiary education are worth people's investment has become a topic of general concern to society and scholars.

While most research focuses solely on the economic effects of tertiary education on future income, this paper examines the effect of tertiary education on the quality of future job occupations and compares this relationship using an international approach comparing four developed countries to three developing countries using subjective measures of job satisfaction and characteristics, as to see if there's any difference in returns to tertiary education between these two groups.

#### 3P

昨今、岸田文雄首相が岸田内閣の主要政策の一つとして「新しい資本主義」を挙げ、その中で、リスクリングによる能力向上支援に取り組むと発表した。このことから、今後リスクリング、社会人になってから勉強をすることは重要になってくると考え、どのような人々が学び直しをしやすくどのような人々がしにくいのかについて明らかにしたいと感じた。

# 秋山裕研究会

・ブース設置場所

南校舎 3 階 432 教室

・パート名とテーマの概要

## 出生率と経済発展

世界全体では、人口が増加し続けていますが、近年、世界の一部の国々では少子化が進んでおり、日本の深刻化は世界でも注目されています。本研究会では、出生率が変化し、それが経済発展に与えるメカニズムを、子育てを明示した効用関数の推定などを通じて明らかにしています。そして、少子化の深刻化が経済発展にどのような影響をもたらすかを定量的に明らかにするとともに、出生率を回復させる少子化対策の効果について検討しています。

・テーマの動機と注目点

### ～動機～

近年、日本では少子化の進展が大きな社会問題となっており、昨年の岸田首相による「異次元の少子化対策」に関する発表をきっかけとして、国民の中でも関心が高まっています。先進国では少子化が進んでいる一方で、発展途上国では人口増加が問題となっています。しかし、先進国では日本のように出生率が低下し続けている国もあれば、出生率の回復に成功している国もあります。そこで、本研究会では、少子化対策について検討するため、出生率の変化をもたらすメカニズムを明らかにすべく、「出生率と経済発展」をテーマに設定しました。

### ～注目点～

本論文の注目点として、以下の3つの点が挙げられます。

#### ① 子育てに関する効用関数の推定と分析

出生率が変化するメカニズムを、子育てを明示した効用関数の推定などを行うことにより明らかにしています。分析にあたっては、世界の国々を出生率の変化の特徴で分類したグループに分けた国際比較を通じて、出生率を変化させる要因について分析しています。

#### ② 出生率の変化が経済発展へ与える影響の分析

出生率の変化が経済発展に与える影響のメカニズムを、技術・資本ストック・労働を生産要素とする生産関数の推定などを行うことにより、先進国と発展途上国のそれぞれにおけるメカニズムの違いを明らかにしています。

#### ③ 出生率の変化を通じた少子化対策の検討

①と②で明らかにしたメカニズムに基づき、少子化対策の効果を検討しています。検討にあたっては、世界において出生率の変化に特徴のある国々のケーススタディも行い、具体的な少子化対策の経済発展への影響を定量的に明らかにしています。

本研究会の教室でのブース展示における特徴として、以下の3点が挙げられます。

①本研究会のブースでは、ご来場の皆様に論文の内容を視覚的にもわかりやすくお伝えするため、論文の構造と内容をわかりやすくまとめた A1 サイズのパネルを多数掲示します、

②論文の内容をパネルにしたものをご来場の皆様に見ていただくだけでなく、ゼミ生が、ご来場の皆様に、1つ1つのパネルについて詳しく説明します。

③本研究会が参加した学外コンテスト（為替レート予測コンテスト・株の長期運用コンテスト）において、最近1年間に表彰された論文の内容もパネル展示します。

是非、秋山研究会のブースにお越しください。ゼミ生一同、お待ちしております。

# 飯田恭研究会

## ・パート名とテーマの概要

本論文のテーマはドイツにおけるジャガイモ栽培の普及についてである。まず序論では導入として、ドイツにおけるジャガイモ栽培の普及とフリードリヒ大王との関係について、日本の文献の中ではどのように述べられているか、実際に幾つかの著作を紹介しながら確認を行う。そして本論の前半ではドイツで 2012 年に出版された文献を用いて、ドイツにおけるジャガイモ栽培の普及に関してフリードリヒ大王が果たした役割について論じ、彼の功績について評価を与える。そして、後半ではドイツにおけるジャガイモ栽培の普及の背景にあった農法の変化と、ジャガイモが持つ役割の変化について、当時ドイツにおいて農法の近代化を実際に牽引したアルブレヒト・テアの、『合理的農業の原理』を用いて論じる。

## ・テーマの動機と注目点

飯田恭研究会ではジャガイモを一つの研究テーマとして輪読を行ってきました。その中で、ドイツにおけるジャガイモ栽培の普及にはフリードリヒ大王が貢献しているという記述を頻繁に目にしましたが、その主張は根拠に乏しく、ドイツ語の文献でさらに詳細に分析することとしました。そしてその分析を通じて、ドイツにおけるジャガイモ栽培の普及は彼の貢献だけでなく、他の要素とも密接に関わっていることが判明し、その中で農法の変化についてさらに具体的に論じる必要性を感じたため、当時のドイツ農業について『合理的農業の原理』を用いて分析することとしました。

本論文の注目点としてはやはり、これまで日本の著作では詳しく触れられてこなかったフリードリヒ大王のジャガイモ栽培振興政策について、ドイツ語の文献の翻訳を通じて明らかにしたその内容と、ジャガイモ栽培普及当初のドイツの人々の実際の反応についてです。また、このような王の実際の命令や、人々の反応についての記録の紹介に加え、当時の農法の変化についても触れることで、18、19 世紀ドイツの農業の実情を知ることができます。

# 石井太研究会

・ブース設置場所

南校舎 3 階 432 教室

・パート名とテーマの概要

「パート名」

1. 研究概要
2. 先行研究
3. データ分析
4. 実現可能性
5. 今後の方針

「テーマ概要」

テーマ

～外国人受入れが将来人口に及ぼす影響の人口学的分析～

今後ますます減少していくことが予想される日本の生産年齢人口に関して、不足した労働力を移民によって補充すると仮定した場合、将来的に日本の生産年齢人口を維持するためにはどの程度の数の移民を毎年受け入れる必要があるのか、先行研究をもとにデータ分析を行い推計し、その移民の必要受入れ水準は現実的なものか、またそれが国内経済にどのような影響を及ぼすかを、日本（受け入れ国）と日本以外の国（送り出し国）両方の視点から考察します。

・テーマの動機と注目点

現在の日本では少子高齢化が大きな社会問題となっており、その進行に伴い日本の生産年齢人口は今後ますます減少していくと見込まれています。そこで、私たちの研究会ではこのような社会問題に対して自分たちの研究分野である「人口学」を用い、そうした労働力不足問題への対応として、実際にどの程度の労働力が今後必要であるのか、より具体的に分析を行いたいと考えました。そこで、不足した労働力を補う手段として「移民受け入れ」という点に注目し、毎年どの程度の移民を受け入れれば生産年齢人口を維持していくことができるのか、またそれが国内経済にどういった影響をもたらすのかという観点から分析を行いました。

# 石橋孝次研究会

- ・ブース設置場所

南校舎 6 階 462 教室

- ・パート名とテーマの概要

競争政策パート：ガソリンスタンドの退出行動について

経営戦略パート：カップラーメンの需要推定

- ・テーマの動機と注目点

競争政策パート

昨今電気自動車の普及などの要因によりガソリンスタンドの存続が危ぶまれている。そこで我々はガソリンスタンドの市場からの退出について分析する。参入モデルを用いて市場規模と均衡企業数を求めることで退出行動を予測し、施行されるべき政策について論じる。

経営戦略パート

コロナ禍での影響や保存食として需要の変化が大きく見られたカップラーメンの背景に興味を持ったためこのテーマにした。どの特性がカップラーメンの需要に大きく影響を与えたかについてに着目してみたい。

# 一上響研究会

・ブース設置場所

南校舎 4階 445 教室

・パート名とテーマの概要

日本銀行によるマイナス金利政策、イールドカーブ・コントロールが実体経済に与えた影響について論じるために、政策発表日の銀行株価の変動を分析するイベントスタディを行った。（金融政策班）

インフレ圧力が日本でも高まっているが、株式市場にもその影響はあるのか、あるとすればどのような影響なのか、インフレの発表日の株価の変動に注目した分析を行った。（株班）

近年北朝鮮によるミサイル発射が国際的緊張を高めている。それは為替市場においても例外ではない。その影響を測定するためにミサイル発射当日の主要為替レートの変動についてイベントスタディを行った。（為替班）

日本におけるパッシブ運用の増加が与える影響について、海外の論文をもとに、それぞれの銘柄に焦点を当てて分析を行う。（金融システム班）

・テーマの動機と注目点

マイナス金利政策、YCC の実行はサプライズであった。市場がこれらの政策をどう受け止めたのかという観点からその効果の波及経路を探るため、株価の変動を分析し、銀行の特色による変動の差について考察した。（金融政策班）

米国ではインフレ率が予想以上に高いことが公式にアナウンスされるとこれに株式市場が反応する。日本においても、近年インフレが進んでいることから、当該状況が日本で観察されるかに注目した。（株班）

北朝鮮によるミサイル発射は為替市場に影響を与えている。しかし、その影響は発射ごとに異なっている。市場がいかにして、ミサイル発射のリスクを評価しているのか、また為替変動の傾向性について分析を行った。（為替班）

世界中で、株価指数の構成銘柄をそのまま保有する「パッシブ運用」が増加している。この増加と同時にアクティブ運用が減少しており、株価に情報が反映されない懸念が広まっている。パッシブ運用の比率が 73%に達している日本において、パッシブ運用の増加が市場に与える影響を分析した。（金融システム班）



# 大垣昌夫研究会

・ブース設置場所

第4校舎2階422教室

・パート名とテーマの概要

テーマ1：規範・世界観・選好がスマートフォン新機種への買い替え行動に与える影響

概要：規範、完璧主義とスマートフォンの買い替え行動に正の相関があり、他人に勧められる・周囲が新機種を購入しているといった他者が新機種購買に関わる場合に規範との強い相関がある。

テーマ2：同調主義が友人との購買行動に与える影響

概要：同調主義が強いと友人が多く消費すれば自身の購買行動も促進され、反対に友人が消費を控えれば自身の購買行動が抑制される。

テーマ3：自己肯定感と身内びいきがプレゼントの頻度に与える影響

概要：自己肯定感、身内びいきの度合いのどちらも、プレゼントの頻度と正の相関がある。

テーマ4：完璧主義と現実主義の世界観がK-POPの視聴行動に与える影響

概要：本研究では、K-POPの消費行動に着目し、「自己志向型完璧主義の傾向が強い人ほど、K-POPの視聴行動を積極的に行う」、「他者志向型完璧主義の傾向が強い人ほど、K-POPの視聴行動を積極的に行う」、「現実主義の傾向が強い人ほど、K-POPの視聴行動を積極的に行わない」という3つの研究仮説を立てた。学生を対象としてGoogle Formを用いて行ったアンケート調査では125件、社会人を対象としたCrowd Worksを用いた調査では115件の有効回答を得た。この全体のデータについて単回帰分析を行った結果、自己志向型完璧主義の総合的指標で18本中5本、他者志向完璧主義は18本中5本、現実主義で20本中6本の仮説と整合的で両側検定10%の有意な結果を得ることができた

テーマ5：八方美人主義が服飾店の衝動購買に与える影響

概要：八方美人主義の世界観と、服飾店での衝動購買の頻度には正の相関がある

テーマ6：好きなことよりできることを重んじる世界観が就職活動に与える影響

概要：「好きなことよりできることを重んじる世界観をより強く持っている人の方が、就活において自分の強みをより重視した選択をする」という仮説が支持された。

・テーマの動機と注目点

テーマ 1

動機：耐久消費財の中でも特に買い替え頻度が多いスマートフォンを対象とし、規範、完璧主義、他者評価を重視する世界観がどの程度新商品への買い替え行動に影響を与えているのかを研究するため。

注目点：規範、完璧主義がスマートフォンの買い替え行動に影響を与えている要因について、質問の分析によって詳細に考察したところ。

テーマ 2

動機：コロナ禍でのマスク着用が任意となっても、周りがつけているからと外さない人が多く、この行動のもととなっている同調主義が日々の購買行動にも影響を与えていると考えた。

注目点：特に購入品の価格が安い時、旅行などの非日常感がある時、ドリンクバーを1人が頼むと全員頼まないといけないなどの不文律が存在する時強い相関が見られた。

テーマ 3

動機：現代のコミュニケーションツールの一つであるプレゼント行為について、日本人特有の性質との関係性を研究したいから。

注目点：自己肯定感が高い人はプレゼントの頻度をあまり意識しないと思われたが、頻度が高い傾向にあったこと。

テーマ 4

動機：音楽は長年世界中の人々の間で親しまれてきており、中でも近年は韓国のポピュラー音楽であるK-POPが世界の音楽市場を席卷している。ではなぜ人々はこんなにもK-POPを視聴し、K-POPに対してお金を払うのだろうか。このことについて「完璧主義」と「現実主義」の2つの“世界観”という視点から分析した。また、この研究を通して、今日世界中で注目されている「K-POP」という音楽文化を好む人の世界観を分析することで、日本の更なる音楽文化の発展に寄与できると考える。

注目点：調査対象を学生と社会人にセグメント分けし、ダミー変数を使った重回帰分析を行うことでその差についても考察したことが注目ポイントである。学生であるか社会人であるかによって、世界観の影響の程度が異なっていたり、反対の影響を及ぼしていたりすることも分かった。

テーマ 5

動機：日常から起きる衝動購買は量化が困難である。しかし、八方美人主義と関連付けたら新たな発見があると仮説立てたから。

注目点：他者評価を意識している際の衝動購買では、男女の結果に差異が生じたこと。

テーマ 6

動機：近年のAIの台頭で、一部の仕事がAIに奪われる可能性がある現代、「AIにはできないが自分にはできること」が一つの仕事選びの基準となりうると考えた。そこで、「好きなことよりできることを重んじる世界観」を持ち合わせているかどうかが新たな仕事選びの基準になると思い、研究仮説をたてた。

注目点：就職活動についての質問の文章で「好き」と「できる」を比較しているかどうか、回帰分析結果の有意性に影響した点

# 大沼あゆみ研究会

## ・パート名とテーマの概要

テーマ「蚕から見る昆虫食の可能性」  
昆虫食の中でも蚕に注目し、その将来性と環境に及ぼす影響、利益を検討しました。

## ・テーマの動機と注目点

現在、世界で注目されている社会問題の1つが食糧危機です。中でもタンパク質に注目が集まっており、2050年には人口に対してタンパク質の需要と供給のバランスが崩れるタンパク質危機を迎えると予想されています。

その状況下で注目を高めているのが、昆虫食です。昆虫はタンパク質を多く含んでいることに加え、生産過程で排出される温室効果ガスが少ないなど、環境保護の観点から見て優れた特徴をいくつも持っています。

中でも、私たちは蚕に注目しました。蚕は糖尿病予防効果や血圧低下の機能をもっています。また、古くから養蚕業が行われていたため他の昆虫に比べ研究が進んでいるという利点も持っています。

以上の理由から、私たちは蚕に注目し、食用蚕の将来性について研究を行いました。

# 大平哲研究会

## ・ブース設置場所

南校舎 4 階 445 教室

## ・パート名とテーマの概要

商店街パート「モトスミ・ブレイメン通り商店街の取り組みについて」

概要：モトスミ・ブレイメン通り商店街でおこなわれている環境活動や IC ブレカは、商店街におけるチェーン店の増加による課題を解決するのに効果的である。

セブ島パート「セブ島での家計調査について」

概要：セブ島の事業地の貧困状態を正確に把握するためには、家計調査の質問票を改めるべきだ。

## ・テーマの動機と注目点

商店街パート

中小企業が共通の興味だった 4 人が、中小企業の集合体といえる商店街の研究を始めた。注目点は、神奈川県内にある 3 つの商店街を実際に訪れて感じたこと、慶應義塾大学の教授で商店街に精通している方へのインタビューにより得た知見を活かした、モトスミ・ブレイメン通り商店街の取り組みが、チェーン店の増加により商店街が受ける影響にどのような効果を与えるかの考察である。

セブ島パート

元々発展途上国の貧困について興味があり、フィリピンへの支援をおこなう NPO ハロハロとご縁があったため、セブ島での家計調査をテーマに選んだ。以前の家計調査では正確な聞き取りができておらず、収入よりも支出が多いという結果が出ている。注目点は現地の in-kind のやり取りやかけ払いを考慮した家計調査を実施することで、正確な結果が得られるかの考察である。

# 沖本竜義研究会

ブース設置場所

南校舎 3 階 436 教室

・パート名とテーマの概要

## ① 「若者の働き甲斐・働きやすさと企業パフォーマンスの関連」

“社員の中でも特に若手の資本価値を高める努力をしている企業”を選出し、企業パフォーマンスを日経平均と比較することで、人的資本経営・労働環境整備・若手育成への投資が企業の外聞だけでなく実際のパフォーマンスも高めること説明したい。

## ② 「企業分析の手法についての実証」

企業の株価を分析する手法として、DCF 法など様々な方法が存在するが、基本的には現在の企業その周囲の動向と過去の情報をもとに将来の企業のパフォーマンスを予測するものである。過去の情報をもとにした株価予測と実際の株価の比較を通して企業分析の精度を調べていきたい。

・テーマの動機と注目点

## ①

### [動機]

昨年度「人材版伊藤レポート 2.0」の公表により人的資本経営は急激に注目を増しているが、人的資本経営も情報開示など見栄えをよくすることに焦点が当たることが想像できる。本論文では特に新入社員を中心とした若手にとって働きやすく成長しやすい環境を作り、若手社員の資本価値を高める努力をしている企業を選出した。それらの企業のパフォーマンスの高さを証明することは、今後人的資本経営に対する本質的な取り組みを促進する上で有意であると考えた。

### [注目点]

#### ① 社員口コミによる人的資本経営の実情を評価

外部に向けた情報開示だけでなく実情として人的資本経営がなされているかを判断する必要があると考えた。そのため、社員口コミサイト「ライトハウス」を利用してコンソーシアム参加団体全 437 法人の中から、業界ごとに社員口コミの高い企業合計 50 社を選定した。

#### ② 18 の指標を用いた独自スコアにより「若手」の働き甲斐と働きやすさを考慮

新卒新入社員を中心とした若手を育成・登用する意識を様々な指標から独自にスコア化した。「育成制度」「新卒への待遇」「時代遅れ感」など合計 6 分類 18 種類の指標をスコア化し、最終的に合計スコアの高い上位 10 社を選定し、企業パフォーマンスを検討した。

## ②

### [動機・注目点]

株価の予測は基本的には現在の企業その周囲の動向と過去の情報をもとに将来の企業のパフォーマンスを予測し適正価格をつけるものである。その過程において、株価を決定するそれぞれの変数は調査の仕方によって大きく異なり、予測値を大きく変化させる。そこで、本論文では株価は適正価格に収束するという前提のもとで株価予想の一般的なモデルの妥当性についての実証を試みた。具体的には、過去の情報をもとに一定の仮定を置いて企業 100 社について株価予測を行い、実際の株価の変動と比較、考察を行った。

# 小橋文子研究会

・ブース設置場所

南校舎 3階 433 教室

・パート名とテーマの概要

## 投資班

日本が他国と結んでいる FTA(自由貿易協定)がどのように対外直接投資に影響を与えるのかについて考察する。特に、FTA の有無、さらには FTA に付随するいくつかの投資に関する規定の存在がどのように関与するのかに注目する。

## GVC 班

各国の経済発展がどのように行われているのか、そしてその違いの要因についてアジアの国々を中心に考察する。1995 年以降、先進国を中心に世界の国々は manufacturing から Service のセクターへと付加価値生産の重心を移動してきた。一方人件費の低い国々は、その分だけ manufacturing の仕事が先進国からオフショアリングされている。それは「悪い仕事」を非先進国が請け負っているように見えるが、本当にそうだろうか。2000 年代以降の国の発展のあり方について輸出付加価値という視点から、アジアと欧米の対比に注目して考察する。

・テーマの動機と注目点

## 投資班

### 動機：

現代の経済は非常にグローバル化が進展しており、国境を越えた貿易や投資が日常的なものとなっている。このような背景の中で、長きにわたり低迷する日本経済が、どのように新しい経済的機会を見つけ出すことができるかを模索することは非常に重要である。

特に、FTA（自由貿易協定）を利用した国際経済との結びつきは、新たな成長機会を見出す上で欠かせない。また、FTA は貿易障壁を低減するだけでなく、しばしば投資に関する規定も含まれているため、これが海外からの投資や国内企業の海外進出に大きな影響を与える可能性があるのではないかと考えた。

### 注目点：

FTA やそれに付随する投資協定が日本企業の対外直接投資に与える影響について、グラビティモデルを用いて定量的に導き出すことで改めて自由貿易の重要性を海外直接投資の側面から問い直す。なお、分析にあたっては 2000 年から 2017 年の日本対世界の対外直接投資額と国別 GDP、そして日本と外国の距離データを用いた。

## GVC 班

### 動機：

例えば 95 年と 2018 年の輸出付加価値を比較すると、先進国を中心に多くの国で上流と下流の割合が増加し中流のそれが減少している。95 年以降の manufacturing から Service セクターへの付加価値生産の移動は、そのグラフの形から「スマイルカーブ」という言葉で表される。しかしそれは特定の 2 地点のみで全ての国を並べて比較しており、各国の経済発展のタイミングとスピードが違うことが十分に考慮されていないと我々は考えた。そこで我々は、同じデータを 2 地点のみではなく 1 年ごとにプロットした三角形グラフを作成し、1 年ごとの軌跡を視覚的に追えるようにした。それにより、ただの折れ線グラフでは見えなかった細かな動きが見え、新たな各国の共通点や相違点が分かった。それを元に国をグループに分けて比較することで、輸出付加価値から見る国の経済発展のあり方について考察しようと考えた。

### 注目点：

95 年～2018 年のデータで分析し、特に変化の激しかったアジアに注目する。東南アジアの国々は政策や資源の有無などの違いなどにより、付加価値の出し方が国によって大きく異なる。急速な発展を遂げている国もあれば、踏みとどまっている国もある。欧米の先進国を目指しているような発展の仕方もあれば、中国のように独自の発展の仕方をしている国もある。それらの違いについて、95 年～2018 年の輸出付加価値データをもとに考察する。

# 加島潤研究会

## ・パート名とテーマの概要

パート名：「中国アニメ産業の海外進出における現状と展望」

この論文は、中国のアニメ産業の現状と今後の展望に焦点を当てたものです。中国のアニメ市場は急速に成長し市場価値が増加していますが、一方で国家による規制などの問題点も抱えています。そして日本のアニメ市場との比較を通じて、中国のアニメ産業における成長と課題について議論します。論文の結論として、中国アニメ産業が今後の成長に向けてどのような取り組みを行うべきかを述べます。

## ・テーマの動機と注目点

このテーマの主要な動機は、中国のアニメ産業に関する成長と発展に対する関心です。中国のアニメ市場は急速に成長しているのにも関わらずあまり日本で中国アニメの話が出ない為、海外進出に力を入れているか否かについて明らかにしていきたいと思いました。

この論文の注目点は、中国のアニメ市場がどのように成長しているかを詳細に調査し、市場の規模がどれだけ急速に拡大しているかに触れ、海外市場にどれだけ規模を広げているかを精査している点です。具体的には、中国のアニメ産業における規制とその影響などについて探求しています。中国のアニメ産業が今後海外進出をさらに展開するための戦略を日本との比較によって明らかにし、競争力の向上に向けた方策を打診します。

# 河端瑞貴研究会

・ブース設置場所

南校舎 3 階 436 教室

・パート名とテーマの概要

〈パート名〉

A 班

〈テーマ〉

高層マンションの価格と都心主要駅からの距離の関係について

〈概要〉

都心(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)において、東京駅や新宿駅のような主要駅からの距離が離れるほど、高層マンションの価格が下がるのではないかと仮説を立てました。この仮説に基づいて、高層マンション価格と主要駅からの距離について R を用いて回帰分析をし、その関係性を GIS(地理情報システム)を用いて可視化しました。またどの主要駅に近いことがより高い価値となるか比較を行いました。以上が私たちの研究テーマの概要です。

〈パート名〉

B 班

〈テーマ〉

本研究は、世界遺産登録前後で群馬県富岡市及びその周辺地域の雇用需要がどの程度変化したのかを分析することを目的としている。

〈概要〉

研究手法として、R を活用した DID (Difference-in-Differences) 分析を使用した。これにより、世界遺産登録前後の富岡市の雇用需要の変化と、同じ期間における他の比較地域の雇用需要の変化との差異を捉えた。また、分析結果をより直感的かつ視覚的に捉えるために GIS (Geographic Information Systems) を用いた。GIS を用いることで、雇用の空間的な変化を地図上で表した。通常、世界遺産の登録は観光需要の増加をもたらし、それに伴う雇用の創出が期待される。しかし、その効果の実態や規模は地域や状況によって異なるため、具体的なデータに基づく分析が不可欠である。本研究は、その一環として群馬県富岡市の事例を深掘りし、富岡製糸場の世界遺産登録が地域の雇用にどれほどの影響を及ぼしたのかを明らかにするものである。

〈パート名〉

C 班

〈テーマ〉

木更津市のアウトレットモール開業が周辺地域に与える経済波及効果

〈概要〉

三井アウトレットパーク木更津の開業前後で就業者数が増えることを分析する。主に DID 分析を用いて、アウトレットパークの周辺のエリアとその外側のエリアで比較することで、同じ木更津市の中でもアウトレットパークの開業が就業者数の変化に与える効果を測定する。



#### A 班

高層マンションについて、どのような駅からであればどのような価格で購入することができるのか疑問に思い、高層マンションの位置と主要駅からの距離について分析を行うに至りました。注目点としては、横浜駅、新宿駅、渋谷駅、東京駅、池袋駅の 5 つの都心主要駅のうち、どの主要駅が最も地価に影響を及ぼすのかということが挙げられます。膨大な量の物件データについて編集作業を行い、簡易化させた後、どのマンションが先に挙げた 5 駅のどの駅と最も近いのかを班員全員で協力して調べ上げました。こうして、駅と離れるほど高層マンションの価値は下がるのか、また、駅によってその差はあるのかといった高層マンションの価格から 5 駅の有する価値について判断を行いました。そして、『なぜそのような結果であるのか』と得られた価値について考察を行い、これについても注目点として十分に魅力ある点として考えています。

#### B 班

##### 〈動機〉

世界遺産は、世界各地に存在する人類全体のための遺産として損傷や破壊などの脅威から保護し、保存していくために設けられているものである。世界遺産は保護と保存の目的が第一であるが、それと同時に地域に経済効果を生み出す。

現在、コロナ禍が明け、日本に海外からの観光客も戻りつつある世の中に変わっていている。しかし、観光客が訪れる世界遺産を代表する観光地において交通渋滞やゴミ問題などのオーバーツーリズム問題が再燃している。オーバーツーリズムや様々な問題がある中で地域の産業も同時に衰退している。その中で地域が持つ観光地を利用して街を創生する自治体が多く存在する。オーバーツーリズム問題や地方創生の取り組みが行われている現状で、観光地が世界遺産登録されることによる経済効果が地域の人々にどのような影響を与えるのかについて興味を持ち、今回世界遺産の中でも周辺地域の影響をあまり受けていないと思われる富岡製糸場を取り上げることにした。

##### 〈注目点〉

注目点としては、より細かく分析できていることが挙げられる。今までの先行研究では市町村単位でしか研究できていなかった。しかし、今回 GIS というツールを使うことで、市町村単位よりもさらに細かい単位で分析できていることが注目点である。

#### C 班

##### 〈動機〉

都心部と郊外・地方の経済格差について興味を持った。現状都市部に集中する魅力的な空間を郊外も構えることで、その地域に雇用増加からなる人口の流入や金銭的利益をもたらすことが期待できるのではないかと考えた。そこで、郊外の大規模商業施設としてアウトレットモールをテーマに選択した。

三井アウトレットパーク木更津に決定した理由については、(1)2012 年開業であるため前後のデータが豊富にあること、(2)回遊性を重視した施設であるため地域への影響が期待できること、(3)千葉県出身の学生が複数おり、アクセスの良さからフィールドワークがしやすいことの 3 つである。

##### 〈注目点〉

アウトレットモールについて統計的な分析をした文献がこれまでほぼなく、この点で新規性があるといえる。また、一般に馴染みのあるものをテーマとして扱っているため、普段訪れる商業施設の裏側にある効果を明らかにした点が注目点である。

# 神田さやこ研究会

・ブース設置場所

南校舎 3 階 433 教室

・パート名とテーマの概要

テーマ

「インドの女性の社会進出、それに対する政策面からのアプローチ」

1章 インドの現状

2章 考え得る原因

3章 政策の種類や世界の事例

4章 インドにおいて有効な政策

終章 まとめ

・テーマの動機と注目点

現在急成長中のインドは世界的に注目されているが、依然として経済格差や男女格差などの問題も残っている。その中でも男女格差はインドの抱える大きな問題の一つであり、我々は女性の社会進出に着目した。

インドにおける女性の社会進出のために行なうべき政策を考えるにあたり性比の歪みを多角的に分析する必要があり、このパートが注目点である。男女格差や性選好など統計的に分析し、1つの結論を出す。

# 清田耕造研究会

・ブース設置場所

南2階423教室

・パート名とテーマの概要

In Kiyota Seminar, two groups of Junior students used data science to research their topic of interest in international economics.

## 1. Trade Openness and Poverty

Our research employs cross-country analysis to better understand the relationship between openness and poverty.

## 2. Impact of BRI Initiatives on the African Region

Our research employs the PPML (Poisson Pseudo-Maximum Likelihood) to the gravity model to analyze bilateral trade.

・テーマの動機と注目点

## 1. Trade Openness and Poverty

Trade liberalization, aimed at reducing trade barriers, is pivotal in international economic policy. Proponents argue it enhances economic growth and reduces poverty; however, the relationship between trade openness and poverty is complex. Some countries witness poverty reduction with expanded trade, while others face unequal benefit distribution among income groups. Thus, given such disparate findings, our research aims to better understand the relationship between trade openness on poverty.

## 2. Impact of BRI Initiatives on the African Region

As of April 2023, nearly a decade since the introduction of the Belt and Road Initiative (BRI), it is supported by 148 countries worldwide, signifying its ongoing evolution. However, recent studies have shown a potential decline in the BRI's influence. This paper aims to research the BRI's effectiveness and potential, focusing on BRI's biggest collaborative continent, Africa. While there are numerous studies on the BRI's impact in Southeast Asia, limited research exists regarding its effects on the sub-Saharan area. To address this topic, we employ the PPPML approach, which is capable of accounting for zero trade.

# 熊倉和歌子研究会

・パート名とテーマの概要

## 1 ハラル/ハラームをめぐる言説の動向

- ・ファトワーの基本概念とその背景
- ・グローバルな言説空間におけるハラル/ハラーム
- ・日本国内の言説空間におけるハラル/ハラーム
- ・グローバルと日本のトレンドの比較

## 2 ハラル商品に対する企業の戦略的取り組み

- ・メルクマールとしての東京オリンピックの重要性
- ・コロナ禍を経て明らかになった変化

## 3 ハラル/ハラームをめぐる消費者意識

- ・企業と消費者をつなぐ存在としての業務スーパーの役割
- ・「ハラル認証」そのものの重要性と「小売業者と消費者との関係」の重要性の比較

・テーマの動機と注目点

近年、日本においても、イスラームの教義で「許されたもの」を意味する「ハラル（halāl）」という概念が認知されてきた。ハラルへの関心の高まりはグローバルなレベルで見られるが、それは単に宗教的な側面に留まるものではなく、経済的動機に基づく部分も大きい。本論文は、日本におけるハラル産業に着目して、経済と宗教、そして消費側と供給側との間に生じる複雑な相互作用を論じる。これにより、日本がハラルの問題において、世界的な関心の動向とどのように一致、もしくは相違するのかを示す。また、宗教的な禁忌に関わる領域に対して、企業や団体、飲食・小売店といった各レベルでとられた戦略を明らかにする。

最初に、グローバルな言説空間と日本国内の言説空間でのハラルに関する議論を数量的に分析し、日本におけるハラルへの関心がグローバルな動向の中でどのように位置づけられるかについて明らかにする（①）。次に、日本企業のハラル産業進出への動機や戦略的取り組み（②）と消費者意識の動向（③）について、インタビュー調査やアンケート調査をもとに考察する。これらの考察に基づき、ハラル商品への関心の高まりやコロナ禍を通じての変化といった流れの中で、ハラル認証の有効性や消費側と供給側の意識の矛盾を示す。

# 小西祥文研究会

## ・パート名とテーマの概要

### チーム①

テーマ：レジ袋有料化政策の環境負荷軽減効果にリーケージがあるか？

### チーム②

テーマ：アメリカにおける電気自動車、充電インフラ助成金の分配方法

## ・テーマの動機と注目点

### チーム①

2020年7月にレジ袋が有料化になって以降、テレビなどではゴミを捨てるためにポリ袋を別途購入する人が増えていた、と報道されていた。この気づきから、レジ袋有料化施策の結果として全面的に押し出されている「消費枚数の削減量≒環境負荷軽減量」に関して、このポリ袋消費量の増加が反映されていないのではないか、という仮説を検証するために、この論文を執筆しようと考えた。

この論文では、レジ袋の代替材としてのポリ袋の消費が政策前後でどのように変化したかを分析することによって、政策の影響を分析している。

### チーム②

脱炭素社会実現に向けて、電気自動車（以下、EV）の普及が各国において喫緊の課題となっている。アメリカでEVの普及を妨げている要因の1つとして、充電スタンドの供給不足が挙げられており、アメリカ連邦政府は充電スタンド設置のために助成金25億ドルを用意したようだ。この助成金を各州に配分するわけだが、果たしてどの州に優先的に配分すべきだろうか？この疑問を解消するため、各州において、「EV需要の増加が充電スタンドの供給に対してどれだけ影響を与えているか」を分析し、分析結果を比較し充電スタンドの供給に影響を与えている要因を特定することで、助成金のより効果的な配分方法を考える。

# 小林慶一郎研究会

・ブース設置場所

南校舎 4 階 441 教室

・パート名とテーマの概要

## ①『消費税率の引き上げに伴う日本経済及び社会保障制度への影響』

本研究は、消費税の引き上げが日本経済に及ぼす影響とともに、社会保障制度の充実への貢献度を綿密に調査・分析する。研究内容は、経済パート及び社会保障制度パートに区分されており、各々の部分で専門的な議論が展開している。

## ②『米韓の金融危機及び経済的な危機』

2008 年の時のアメリカと 1997 年の韓国の金融危機及び経済危機に対して考察し、その原因と背景、影響について書く。これに基づいて現在のアメリカと韓国における経済及び金融問題について述べるし、この現象を説明しながらこれをどのように解決できるのかについて書く。

## ③『日本の移民受け入れが経済に与える影響』

日本は長らく移民受け入れに慎重な姿勢をとってきたが、近年、人口減少や労働力不足といった課題に直面し、移民政策の見直しを進めている。このテーマは、日本が移民を受け入れることが経済にどのような影響を与えるかに焦点を当てている。研究方法は、国内での移民の受け入れの歴史の調査、分析と他国との比較によって行う。

## ④『日本の消費税の現状と税収の簡易シミュレーション』

本研究は今日の日本の財政状態について分析し、その問題点について説明する。その後、税収に関する簡易的なシミュレーション分析を行い、最適な消費税率の計算を行う。

・テーマの動機と注目点

## ①『消費税率の引き上げに伴う日本経済及び社会保障制度への影響』

2019 年の消費税率の 10% への引き上げにおいて、財務省は「消費税率の引上げ分は、すべての世代を対象とする社会保障のために使われます。」と述べていた。約 4 年の時を経て、消費税の増税が社会保障制度の充実化にどの程度貢献したのかに対する興味、関心を抱いたことで、本研究を執筆するに至った。年金、医療、介護、少子化対策等の社会保障制度の項目ごとの実態に加え、内閣府、OECD Data、財務省の提供する情報にもとづいて、回帰分析などを駆使したデータ分析にも注目して頂きたい。

## ②『米韓の金融危機及び経済的な危機』

最近アメリカでは SVB のような銀行が倒産し韓国の場合も最近、経済成長率がよくないし、潜在的な経済成長率も低下していく状況であるため興味を持つようになった。ここでの注意点及び、力を入れたい部分は解決方法に対する考察だと思っている。

## ③『日本の移民受け入れが経済に与える影響』

注目点は、日本の移民政策における転換点が迫る中、1993 年からの技能実習制度の廃止と、新たな人材育成と確保を目的とした制度の導入に焦点を当てた点だ。動機は、現在の状況が日本の移民政策における転換点であるため、新たな制度が経済に与える影響を十分に理解したいと考え、本研究を執筆するに至った。

## ④『日本の消費税の現状と税収の簡易シミュレーション』

高齢化に伴い社会保障費の増大が問題となっている。IMF は 2030 年までに消費税を 15% 引き上げる必要があると指摘した。現在、政府は税制改革を進めており、消費税率が 15% に引き上げられる可能性もある。税収を最大化するには何%の消費税が最適なのか分析したい。

# 駒形哲哉研究会

## ・パート名とテーマの概要

日本の中小製造業が中国拠点を持つ意味の変化について  
近年の中国と日本における事業環境の変化が、日本の中小製造業が中国に拠点を持つことの意味にどのような影響を与えているかを、中国に拠点を維持している企業へのフィールドワークを通して考察する。

## ・テーマの動機と注目点

日本の製造業は 1980 年代以降、国内生産から海外生産への切り替えを余儀なくされてきた。当初日本の大企業はアジア NIEs および ASEAN へ展開し、後に他の先進諸国の企業とともに改革開放を加速した中国に生産拠点を設置して、中国は世界の工場となった。さらに 2000 年代に入ると、日本企業の中国展開は大企業への中小企業の随伴進出も伴ってさらに進み、中国国内での日本企業同士の競争も進んできた。

このような流れで進んできた日本企業の中国進出であるが、近年中国における事業環境は大きく変わりつつある。2022 年には、中国へ進出する企業は過去 10 年で最も少ない 1 万 2000 社にとどまっている。これは、日本の製造業における中国拠点の意味が変わりつつあることを意味していると考えられる。以上のことから、中国に進出している日系企業の中でも中小製造業に焦点を当て、中小製造業にとって中国拠点を持つ意味の変化について考える。

# 駒村康平研究会

- ・ブース設置場所

南校舎6階462教室

- ・パート名とテーマの概要

## 貧困格差班

大学進学率における都道府県格差の要因構造を時点間の変容を考慮しながら明らかにし、都道府県間格差がどのようなメカニズムによって生じているのかを分析する。

- ・テーマの動機と注目点

大学の数が増加傾向にある近年では大学進学率は上昇している。しかし、依然として大学進学率には都道府県格差が存在している。こうした格差はなぜどのようにして生じているのか。この点については十分な議論がされてきたとは言い難く、大学進学率の都道府県間格差のメカニズムを明らかにすることは重大な課題である。



# 笹原彰研究会

## ・パート名とテーマの概要

Title: Factors Influencing Cross-country Differences in the Price of Streaming Services

Although the “law of one price” suggests that the price of the same commodity must be uniform across countries, it is evident that, at least in the case of streaming services, this price differs across countries. In this research, we take advantage of cross-country data of streaming prices to investigate the possible determinants that are correlated with the price differences. Through our research, we have concluded that the average income of the country as well as the quality of the streaming service - determined by the licensed contents - contributes to the differences in the price of the streaming services.

## ・テーマの動機と注目点

Initially, we examined this dataset to confirm the “law of one price.” However, when we were examining the data, we discovered some deviancy of Netflix pricing across countries. Therefore, we extended our examination to Disney-Plus and discovered that it also had deviancy from “law of one price.” Therefore, to examine the cause of this anomaly, we decided to approach this issue from an empirical perspective.

In this paper, we have utilized a unique methodology to examine the quality differences of the same streaming service across countries. We exploit the logic that in a country that censors media, there will be less media from “Hollywood”, which is arguably considered the leading force in the entertainment industry. To verify this assumption, we utilize two different indexes: Personal Freedom Index (PFI) and Freedom of Expression Index (FEI) provided by *World Population Review* and *Our World in Data* respectively.

# 白井義昌研究会

ブース設置場所

南校舎 2 階 422 教室

## ・パート名とテーマの概要

### 【国際経済学、国際貿易論】

- ・ 経済発展要因に関する仮説である” Big Push” に関してその基礎的な理論のストーリーを紹介します。
- ・ 関連した先行研究論文から Big Push 仮説にどれほどの説明力があるのかを検証し、12 月に開催される他大との合同研究発表会の研究指針についても紹介します。

## ・テーマの動機と注目点

### 【動機】

春学期、「国際貿易を行っている場合と行っていない場合で、農業生産性と工業発展にはどのような関係性があるか」というテーマの論文を輪読し、最終結論として「国際貿易は工業化を阻害し得る」という事が分かりました。しかしながら近年の中国、台湾といった経済発展例を考えるとこの仮説は現実に即しないと考えられます。より正確に国際貿易と工業化の関係性を理解するために様々な論文を通して工業化の基礎理論を学ぶこととし、この” Big Push” はその最終段階で取り組んだ内容になっています。

### 【注目点】

- ・ Big Push 仮説の述べる結論とそれに至るモデル展開の特徴
- ・ Big Push と我々が立てる問の関連性、活用の見通し

# 玉田康成研究会

・ブース設置場所

南校舎 4階 442 教室

・パート名とテーマの概要

- ① 企業戦略パート  
エコブランディングと企業間競争の関係性の考察と提案
- ② 企業戦略パート  
カーシェアリングサービスの普及による企業のSDGs 貢献
- ③ インセンティブパート  
日本における空き家問題とその解決
- ④ 行動経済学パート  
フードロス削減に向けた、消費者向けのナッジデザイン考案とその効果検証

・テーマの動機と注目点

- ① SDGs を推進させるためには企業が本腰を入れて環境問題に取り組む必要がある。しかしながら、企業は利益を最大化させることが第一優先事項である場合がほとんどだ。そのため、企業が環境問題に取り組むことで得られる効用をエコブランディングの観点から考察しようと考えた。現代社会の課題点に対する一つの解決策として、エコブランディングの有効性を再確認してみたい。
- ② SDGs を推進させるために、車が排出する二酸化炭素量を減らすことが必要である。そのため的手段として、カーシェアリングサービスをさらに普及させ、マイカーの保有率を下げることによる走行距離の減少が友好だと考え、カーシェアリングサービスを提供する企業がいかんにしてさらにカーシェアリングサービスを普及させるかを、経済学を用いて分析した。
- ③ 動機は高齢化が進んでいる日本では、空き家が多くなっていることが社会問題になっている話をよく聞くため、解決する価値があると感じたためです。空き家の活用が行われるように空き家市場の流動化を目指し、その仲介方法に注目しました。
- ④ 食料自給率が、他の先進国と比べて圧倒的に低い日本において、フードロスは深刻な問題である。そんなフードロスを、生産者・小売事業者・消費者のそれぞれに関してボトルネックを特定し、行動経済学的バイアスを理解して適切にアプローチする。

# 津曲正俊研究会

・ブース設置場所

南校舎 2 階 422 教室

・パート名とテーマの概要

パート名①：マーケットデザイン

テーマ概要：大学入試制度の非効率な部分をマッチング理論により考察する。

パート名②：ゲーム理論

テーマ概要：宇宙ゴミの排出を減少させるために、どのような施策を行うことが適切かについてゲーム理論を用いて考える。

・テーマの動機と注目点

テーマの動機と注意点：初めての論文ということもあり、なるべく自分たちにとって身近なテーマを選んだ。また、大学入試は国によって制度が異なることについて興味があり、手始めに日本の大学入試制度について調べようと考えた。今回の受入保留アルゴリズムを利用したが、そのアルゴリズムが本当に上手く機能するのかについて実証研究を行った。（マーケットデザイン）

テーマの動機と注意点：宇宙産業は将来有望とされているが、日本に関しては市場規模が小さいというところに興味を持った。宇宙産業の中でも、宇宙ゴミという分野に焦点を当て、モデルを立てて研究を行った。（ゲーム理論）

# 寺井公子研究会

・ブース設置場所

南校舎 3 階 436 教室

・パート名とテーマの概要

・官民連携班

テーマの概要：官民連携の水道事業の効率性

・道路投資班

テーマの概要：道路投資に関する効率的資源配分制度について

・環境経済班

テーマの概要：少子高齢化社会の進行に伴い、人口減少・流出が原因となり各地方で限界集落が同時多発的に発生する可能性が懸念されている。また都市環境の整備に割くことができる財源の縮小により、整備が杜撰になる地域が増えるという懸念点も挙げられる。そこで、そのような都市問題の解決策の一つとして近年注目されている、都市機能が狭い面積に集約されたコンパクトシティの可能性を探る。すでにそのような形態をなしている蕨市を参考材料とし、コンパクトシティの形成要因には何が必要となるかを模索する。

・テーマの動機と注目点

・官民連携班

日本政府の財政状況の悪化により官民連携が進む中、海外では水道の民営化に失敗していた。本当に日本の官民連携が水道事業の効率化に貢献しているかについて、フロンティア分析という革新的手法で分析する。

・道路投資班

「受益と負担の乖離」、「政治的忖意性」という問題を抱える自動車税の地方税化を提言する。同時に、東日本大震災発生後に導入された復興特別所得税が我が国の道路投資に与えた影響を検証する。

・環境経済班

少子化による限界集落の発生を予防する手段として、海外で前例があり国内でも平成中期から都市の理想モデルの一つとされていたコンパクトシティに注目した。コンパクトシティであるか否かの尺度としては、面積と人口の関係、徒歩圏内の商業施設の充実度などのさまざまなものがあるが、私たちは住宅がどの程度集中しているかを表す宅地集中度に着目し分析する。

# 土居丈朗研究会

・ブース設置場所

南校舎 4階 441 教室

・パート名とテーマの概要

・地方創生班①

私たち地方創生班は、「外科医の地域間格差是正に向けて」というテーマを設定した。このテーマのもと、都道府県ごとの外科医の実態を調査し、地域間で発生する外科医に関する問題を解決するような政策提言を目指す。

・地方創生班②

地方の過疎化、少子高齢化を問題意識とし、大学進学時の都市部への人口流出に着目する。地方における高等教育の機会を拡充させることによって、都心部への人口流出を食い止めることで地方創生を実現する。地方大学およびサテライトキャンパスの効果を分析し、地方創生の観点から望ましい大学配置、運営について政策提言を行う。

・社会保障班

子どもの体験格差を解消するための政策提言。認知・非認知能力双方に影響する体験格差に対し、既存の取り組みを活用しつつ、より包括性を高めることを提言する。

・財政班

企業の ESG への取り組みの評価基準の策定および情報開示の制度を検討を通じて、より公正な ESG 投資を活発化させることを目指す。

・テーマの動機と注目点

・地方創生班①

かつて新型コロナウイルスが蔓延した時、病床数や医療に関する格差が明らかになったため、医療の地域間格差に興味を抱いた。中でも外科医は診療科別の週当たり労働時間が最も多いため、真っ先に外科医の問題を解決する必要性を感じた。

・地方創生班②

地方創生を実現するためには、人口の流出を食い止めることが最も重要だと考えた。人口流出の主な契機として、地方に在住する学生の大学進学に着目した。日本全体として少子化が叫ばれる中で、より良い大学運営のあり方は考察に値すると考えた。

・社会保障班

近年就職や入試等で体験が重視され、早急に解決すべき問題と考えたことから選定した。多くの子どもに効果的な体験の機会を提供することを目的とし、体験における諸要因の今後の生活への影響や、諸団体で独自に取り組みが実施されている点に注目した。

・財政班

ESG 債市場の規模が急速に拡大する一方で、資金が正しく使用されているのかなどの“グリーンウォッシュ問題”も課題となっている。こうした課題に対処しつつ ESG 債の社会貢献性や資産形成での需要という利点を最大限生かすような政策を検討する。

# 直井道生研究会

- ・ブース設置場所

南校舎 4 階 423 教室

- ・パート名とテーマの概要

- ・不動産班  
「複合用途型マンションにおける、1 階のテナントがマンションの分譲価格に与える影響」
- ・交通班  
「不採算路線の継続、廃止及び BRT への転換の各政策が地域の人口減少率に与える影響」
- ・再開発班  
「横浜市の土地利用規制による土地価格への影響」

- ・テーマの動機と注目点

・2023 年某ラーメン店がマンションの 1 階にオープンし、マンション住民の生活への懸念が SNS で話題になったことは記憶に新しい。このようにマンションの 1 階に入ったテナントはマンションで暮らす住人の生活に影響を及ぼしているだろう。これらの影響が人々のマンションへの嗜好にも関わっていると考え、これを検証することにした。複合用途型マンションの分譲価格データをテナント種別に集め、回帰分析を行うことで、複合型マンションでないマンションと比較し、1 階のテナントが同マンションの分譲価格にどのように影響を与えているか検証した。

・1974 年、ブラジルで誕生したバス車両をベースとした高速運行の公共交通システムであるバス・ラピッド・トランジット（通称 BRT）は途上国を中心に現在約 200 都市で採用されている。日本でも近年小都市を中心に導入や検討が進んでおり、1 例として不採算路線の BRT への転換が挙げられる。新たな交通システムの導入は小都市で全国的に進む過疎への対策と成りうるのか？私たちは利用状況の類似する不採算路線に対する政策を、「廃線」「継続」「BRT への変換」の 3 パターンに分類し、各政策が人口減少率に与える影響について調べた。

」

・2006 年、横浜市が全国に先駆けて実質的にタワーマンションの新規建設を規制する横浜都心機能誘導地区建築条例を施行した。その背景には、就業人口が減少する一方でタワーマンション建設の増加などにより居住人口が増加し、業務・商業等の都心機能が低下していることへの懸念があった。住宅供給量を減らし、かつ都心機能を誘導することを目指したこの土地利用規制がエリアの地価にどのような影響をもたらしたのか、差分の差分分析を用いて検証する。

# 長倉大輔研究会

・ブース設置場所

南校舎4階443教室

・パート名とテーマの概要

## 【ESG投資と企業価値】

本研究では、「ESG投資」と「企業価値の関係」を、先行研究を踏まえながら明らかにすることを目指した。本研究ではBloomberg ProfessionalからさまざまなESG関連データを、数多くの企業について収集した。

## 【飲食店の売上予測】

実際に存在する飲食店から過去数年分のその店舗に関するデータをいただいた。そのデータから売上に起因すると思われる要素を集め、当該店舗の今後の売上を予測した。売上を被説明変数とし、気温や人件費、曜日等を数値化したものを説明変数として回帰分析を行った。他にも季節や周期を考慮した「時系列分析 (SARIMA モデル)」や、「重回帰分析」を用いた統計的手法も取り上げた。これらの手法をもとに売上を大きく左右する要因を見つけ出し、今後の売上を向上させる施策を模索する。

・テーマの動機と注目点

## 【ESG投資と企業価値】

近年、企業の社会的責任がこれまで以上に問われるようになってきた中で、さまざまな企業がESG関連投資（環境・社会・ガバナンス関連投資）を行うようになってきた。ただ、投資家の中にはESG関連投資が実際に「企業価値の向上」につながるのかに疑問を持つものも多い。この現状の上で、実際に「ESG投資」と「企業価値」に関係があることが分かれば、今後、「ESG投資」を積極的に行う企業に対して、投資家たちは積極的な投資を行うことにつながり、ひいてはサステナブルな社会の構築につながるのではないかとの思いから研究を始めた。今回の研究においては、さまざまな統計手法を用いて、多角的に「ESG投資」と「企業価値」の関係を検証した。統計手法による結果の違いにも言及せんとした。

## 【飲食店の売上予測】

数年前、人々に猛威を振るった新型コロナウイルスはまだ記憶に新しいが、なかでも飲食業界は大きな被害を被った。人々の外食が制限されたことで、客足が遠のいた。閉業や営業形態の変化を余儀なくされた飲食店は数知れない。そこで、新型コロナウイルスの感染が落ち着いた現在の現在、今後どのようにすれば飲食業界が活気を取り戻していくか、一例としてある飲食店の売上に着目して分析を行った。対象とした飲食店が実在するため、その分析結果を肌で感じられる点及び分析結果を還元できる点でこのテーマになった。

「SARIMAモデル」と「重回帰分析」という2つの分析方法から導かれる売上予測と施策に注目していただきたい。



# 中嶋亮研究会

・ブース設置場所

南校舎 3 階 436 教室

・パート名とテーマの概要

1 班

テーマ：『日本における気候と犯罪認知件数の相関』

概要：各市の月別データと、日別の気候データを活用し計量分析を行い両者に相関関係が見られるのかを研究しました。

2 班

テーマ：小野市のギャンブル通報条例の有効性

3 班

テーマ：住宅宿泊事業法に基づく自治体の条例は、地域の生活環境に影響を及ぼすか。

4 班

テーマ：『ふるさと納税と観光客数の関係性』

概要：特定の地域や自治体におけるふるさと納税の実施が、その地域に観光客を引き寄せる要因であるという仮説のもと、ふるさと納税が観光客に与える影響を評価していく。

・テーマの動機と注目点

1 班

私達は気候が人間の心理に与える影響を考えた論文を基に、その影響は犯罪の動機になりうるのかに興味を持ち、調べるに至りました。

注目してほしい点は分析です！

2 班

対象の標本の大きさが 1 でも分析可能な合成コントロール法の利用性について理論的に深めたかったため。

3 班

2018 年 6 月より、住宅民泊の違法営業を防止することを目的として、住宅宿泊事業法が施行された。これに伴い、各自治体は地域の生活環境悪化を危惧し、独自の条例によって民泊営業を取り締まるようになった。これらの条例は、規制の厳しさから、民泊サービス普及の妨げになっているだけでなく、かえって違法営業を助長しているとも言われている。本研究は、民泊条例の合理性を検証することを目的としており、各自治体の条例が周辺地域の騒音問題や犯罪の発生を抑止できているかが注目点である。

4 班

「ふるさと納税の豪華すぎる返礼品や、その地域と全く関係がない返礼品が増え自治体間の競争が過熱している」と報道されたことをきっかけに、私たちになりに調べたところ、昨年度は全国の寄付額の総計が開始時の約 1.34 倍の 9654 億円と急激に伸びていることがわかった。経済学においては、企業は株主利益の最大化のために合理的選択を行うということを学んだが、ふるさと納税は、納税者の立場からは経済合理性が見えにくく、どのように観光客数の推移に織り込まれているのか、または織り込まれていないのか研究を深めたい。

# 中妻照雄研究会

・ブース設置場所

南校舎4階教室443

・パート名とテーマの概要

中妻照雄研究会では、「データサイエンス」「フィンテック」「コーポレートファイナンス」の3つのパートに分かれ、最先端の研究をしています。各パートの中でも、論文は個人単位で3年生が執筆しており、データを使った実証分析を行い、興味関心のあるテーマに関する論文を完成させます。

・テーマの動機と注目点

中妻照雄研究会では、主に3年生が個人単位で執筆しており、論文の執筆は夏休みから開始します。春学期中は個々人が研究したいテーマの基礎学習を行う目的で、先行研究で執筆された論文についての発表を行います。夏休み以降に行う三田論執筆は春学期期間の論文発表の中で各自が研究した内容のさらなる深掘りを行う目的で実施しています。一人一人が各々の興味関心に沿い、オリジナルな研究を行っています。テーマは、データサイエンス、フィンテック、機械学習、ベイズ統計学、人工知能、アセット・マネジメント、コーポレート・ファイナンスと多岐に渡ります。各々の情熱溢れる論文を是非、ご一読ください。4年生は今までの研究の集大成として3年生で行った三田祭論文のさらなる深掘りとして、卒論を執筆します。今までの卒論は中妻照雄研究会のHPに掲載されているので気になる方はご一読ください。

# 中西聡研究会

## ・パート名とテーマの概要

「近現代日本の地域振興」

はじめに 問題の所在

第1部 地域振興の歴史的前提

第1章 近現代日本の人口動態とその影響

第2章 地方財政赤字の形成・様相

第2部 内発的に生まれた地域振興

第3章 自治体による都市政策の転換と事例

第4章 地域振興における地場産業の持続的発展

第5章 地域協働の手段としての地域通貨

おわりに

## ・テーマの動機と注目点

第1章…日本社会は人口減少・高齢化が急速に進行し、地域経済の衰退が懸念されている。そこで、主に戦後における国単位・地方単位の人口動態を詳しく顧みること、第3章以降で提示される地域振興策の前提を確認する。

第2章…人口減少下での地域振興策を考え出すためには、地域経済の現状をまず知る必要がある。現在の経済状況を理解するには、過去に遡って現状の原因を探る歴史的視点が必要といえる。そこで、地方財政の歴史を現在と直結する戦後という範囲で確認し、その文脈を踏まえて具体的な地方自治体の統計から個々の傾向や特徴を読み取るという方法を取る。

第3章…第一部で説明された人口や財政の変動を受けて、地方自治体によって行われる政策はどう変化していったのか。今回は自治体の要になる都市政策を中心に、その流れを紹介しつつ、一つの実例を見つめてそれを通じて現代の政策のブラッシュアップ策を提言していく。

第4章…これまで日本各地では、地域固有の資源を活用した地場産業、小規模な製造業などが発展してきたが、グローバル化が進み、自国製品の競争力が失われてしまったことで、衰退の一途を辿っている。私はそこに問題意識を持ち、地場産業を持続的なものにするため、競争力の源となるブランド戦略について研究した上で、地域産業の包括的な戦略として、産業集積や、マーケティング戦略を研究し、地域産業を再び活性化させる糸口を模索することを目的としている。

第5章…地域振興の為に各地域の経済活動を活発化させる必要があると考えたが、円という一つの通貨単位によって繋がった大きな経済圏では、競争原理によって負けた中小企業や地場産業もそうだが取り残される地域が存在する。ある程度小さな範囲内に限り効力を持つ地域通貨を用いて、その特定の経済圏での消費を活発化することで地域経済の成長または回復に繋がりたい。

# 難波ちづる研究会

## ・パート名とテーマの概要

タイトル 「帝国と医療」

内容

序論

第1章 「イギリスが英領マラヤにもたらした「医療」」

第2章 「英領東アフリカにおける植民地医療政策」

第3章 「東アフリカにおけるインド人医師の立場」

第4章 「列強国の医療介入~満州における医療制度の変遷~」

第5章 「朝鮮半島における植民地医療体制」

終論

## ・テーマの動機と注目点

今回、当ゼミは、「帝国主義」と「医療」をテーマに論文を執筆した。近年発生した新型コロナウイルスのパンデミックによって、人々の感染症への関心、特に疫病史への関心はかなり強まったといえる。14世紀の「ペスト」や、20世紀前半に起こった「スペイン風邪」など、過去のパンデミックを振り返る機会が劇的に増加した。この運動はまさに、パンデミックに直面した人々が、自分たちの社会構造の変化を察知して、歴史を学ぶ重要性を再認識した証左であると考えられる。このような状況の中、本稿は、特に「帝国主義」や「植民地経済」の視点から、感染症の歴史と、それに伴って起こった社会変容を考察することを目的として執筆された。第1章では、英領マラヤにおいて、イギリスがとった医療政策に注目した。英領マラヤでもたびたび疫病の流行が起こっている。本章では様々な感染症に対する、イギリス政府や現地政府がとった政策の特性について考察している。第2章では、同じく英領である、東アフリカにおける植民地医療政策について着目している。東アフリカ現地での医療政策は、表向きは「現地住民の健康を守るために、最先端の医療政策を普及させる」ことが目的とされていた。しかし実際は、よりイギリス本国の利益を優先した政策がとられており、そのギャップについて考察している。第3章では、東アフリカにおけるインド人医師にスポットを当てている。インドはイギリスの植民地の一つでありながら、他のイギリス植民地諸国とは異なる、独特な立ち位置を取っていた国である。そのようなユニークな境遇において、インドの医師が他の植民地において担った役割について考察している。第4章では、満州における医療制度の変遷に着目している。満州は19世紀末に行われた、列強諸国による中国分割以降、様々な国家の医療政策の影響を受けている。そのたびに起こった社会変容や、制度の変更について考察している。第5章では、朝鮮半島における、医療制度の変遷について考察している。特に日本統治の影響について着目しており、日本本国の情勢は、植民地政府の政策に強く関連していることを明らかにしている。

# 長谷川淳一研究会

## ・パート名とテーマの概要

**【パート名】**：長谷川淳一研究会

**【テーマの概要】**：(公園における)官民連携による規制緩和について。具体的には、宮下公園の事例を通じて、公共団体の財政負担軽減のために、公営施設を民間の活力（資金・ノウハウ）を活用することの是非を述べる

## ・テーマの動機と注目点

**【テーマの動機】**

神宮外苑の再開発が話題になっていて、近隣地域で直近の PPP がなされた宮下公園を調べることにした。

**【テーマの注目点】**

元々公共の場だったが、ナイキジャパンと三井不動産が関係した二つの時期が存在する点

# 藤原一平研究会

・ブース設置場所

南校舎4階432教室

・パート名とテーマの概要

- ① パート名：ESG 経営が企業価値に与える影響  
テーマの概要：「企業による ESG 経営は企業価値を向上させるのか」
- ② パート名：世界遺産登録の経済効果  
テーマの概要：世界遺産登録によって生まれる経済効果を短期・長期的に分析する。
- ③ パート名：坊主がスポーツに与える影響(野球)  
テーマの概要：坊主にしているか、していないかがスポーツの勝率に与える影響を考察する
- ④ パート名：企業の不祥事が類似企業へ与える影響  
テーマの概要：

・テーマの動機と注目点

- ① 新型コロナウイルス感染症によるパンデミック以前から株式市場を中心に ESG への関心が強まっているものの、長い期間にわたってこの疑問は解消されていません。これまでも ESG 経営と企業価値の関係性は議論されてきたものの、その多くは定性的な整理にとどまり、近年ようやく定量的に分析を試みる研究も散見されるようになってきました。しかし、それらのほとんどが株価や将来キャッシュフローに関する分析にとどまり、そこに ESG 経営との明確な因果関係を見出すことはできません。そこで私たちは、経済分析手法の一つである「傾向スコアマッチング法」を用いて、ESG 経営と企業価値の間の因果関係を明らかにし、ESG 経営が企業価値向上に寄与するのかについて検証することにしました。  
皆様には、ESG 経営を行う企業のパフォーマンスが向上した際、それが本当に ESG 経営によってもたらされたものなのか、他の要因によってもたらされた可能性はないか、など ESG 経営と企業価値の明確な因果関係について注視していただきたいと考えています。
- ② 富士山の外国人観光客の野宿が近年の社会問題になっていることから、世界遺産登録によって外国人観光客が増加しているのではないかと考えるから。  
注目点：世界遺産登録される前と後手観光客が増加するか
- ③ プロペンシティスコアマッチングを用いて、各校の坊主になりやすさを定量的に評価する。
- ④ 今年、ビッグモーターの保険金不正受給が発覚し、業界内外へ影響が波及しました。私たちは、ある業界で不祥事が発覚した場合、その業界の競合他社にはどのような影響が出るのか気になりました。ある企業の不祥事が発覚することで、他の競合他社には、その顧客が流れることで、良い影響を及ぼすのか。または、業界全体への不信感が高まるのか。前者か後者かは業界または不祥事の内容によって異なるのではないかと考え、私たちは、様々な業界ごとに調査を行い、業界及び不祥事の内容ごとに分類分けして調査を行いました。  
皆様には、ある企業で不祥事が発覚した場合、業界及び競合他社に、良い影響を与えるのか、悪い影響を与えるのか、一度考えてみてほしいです。きっと、人によって意見が異なると思います。

# 星野崇宏研究会

・ブース設置場所

南校舎 2階 422 教室

・パート名とテーマの概要

## 【テーマ】

位置情報ビッグデータ<sup>1</sup>と習慣形成を用いた小売店舗の商圈<sup>2</sup>推定

## 【概要】

スマートフォンの位置情報データを用いて、鉄道駅や小売店舗の利用者の行動を分析し、また消費者の不合理な選択を考慮した店舗の商圈推定を行いました。

・テーマの動機と注目点

## 【動機】

小売店舗の商圈とは、単に企業のマーケティングだけでなく、都市の商業立地を考える上で不可欠な概念です。特に都市政策と商業政策の連携の重要性が高まった現代、商圈を把握することの意義は高まっています。商圈推定に関する議論は前世紀から更新され続けてきましたが、人々の位置情報データを用いた研究が行われるようになったのは、2010年代以降です。特に日本では、位置情報データを用いた商圈推定に関する学術的な研究はあまり行われていません。そこで、スマートフォンの位置情報データを利用し、一人一人の行動を捉えることで、消費者の店舗選択行動を分析しました。分析にあたり、従来のモデルに消費者の特性を反映し、「新しい店舗が出来た」という事象を利用して従来の「合理的な消費者」の仮定のもとでは分からなかった、消費者の習慣形成を考慮した商圈推定を行いました。消費者の選択行動について理解し、商圈を捉えることは、各企業だけでなく、都市集積の議論及び国や自治体の都市政策にも貢献すると考えます。

## 【注目点】

### 新規性①：位置情報ビッグデータを用いた東京都市圏における商圈推定の実施

位置情報データの精度が向上し、消費者の店舗選択行動を把握できるようになりましたが、国内で位置情報データを用いた学術的な商圈理論の研究はこれまでほとんど見られません。

### 新規性②：店舗選択における消費者の不合理性の考慮

近年店舗選択時のリスク回避行動や探索コストの研究は行われてきましたが、従来商圈推定のための選択行動モデルでは「合理的な消費者」が仮定され、このような消費者の不合理な行動特性は考慮されていません。本研究では、人々のデータを習慣形成のされていない引越し者とそうでない者に分類し、新店舗の開設という自然実験的な事象を利用することで、消費者の不合理性を考慮した商圈推定を行いました。

また、携帯電話の位置情報データを用いることで、従来の研究で使用されていた自宅から店舗の距離だけでなく最寄駅から店舗の距離や、店舗の利用頻度を考慮した分析を行ったため、より現代の消費者の状況に即した研究であると言えます。

<sup>1</sup>スマートフォンの位置情報を収集したもので、数分単位で更新されるため人の動きを把握することが可能。

<sup>2</sup> 商圈の具体的な定義はないが、一般的にある商業施設等を利用する消費者がいる範囲として使用される。店舗の選択確率を地図上に示したものとして表されることが多い。

# 牧野邦昭研究会

・ブース設置場所

南校舎 4階 445 教室

・パート名とテーマの概要

はじめに

## 第1章 小泉信三の生涯とその思想

第1節 小泉信三の生涯

第2節 「秩序ある進歩」

## 第2章 小泉信三とベルンシュタイン

第1節 ベルンシュタイン及び修正主義

第2節 小泉思想とベルンシュタインの改良主義的思想の類似性

## 第3章 教育者・啓蒙家” 理性的保守派” としての小泉の実践

第1節 戦後の反共産主義者としての活動

第2節 社会政策への主張

第3節 塾長時代のスポーツ振興

第4節 小泉と皇室

おわりに

テーマの概要：第1章では小泉信三の生涯とその思想を紹介する。第2章では小泉の「秩序ある進歩」をベルンシュタインの思想と比較し、その類似性や影響を明らかにすることで、小泉の思想を改めて論ずる。そして、第3章では小泉が自身の思想をどのように実践したのか、いくつかの側面から言及する。終章では本論を踏まえたうえで最終的な考察を行う。

・テーマの動機と注目点

[動機]

牧野邦昭研究会では、春学期に楠茂樹氏・楠美佐子氏の『昭和思想史としての小泉信三ー民主と保守の超克ー』の輪読を行った。そして輪読を進めるなかで、小泉信三とベルンシュタインの思想の類似性に注目し、両者の比較を通して小泉の思想をつかむことを三田祭論文のテーマとした。

[注目点]

- ・小泉信三とベルンシュタイン、両者の思想の比較（第2章）
- ・実践としての小泉思想の考察（第3章）
- ・小泉思想の最終的な考察（終章）



# 松沢裕作研究会

- ・ブース設置場所

南校舎 4 階 436 教室

- ・パート名とテーマの概要

- ・鉄道と学園町の関係
- ・田園都市株式会社の土地購入のやり方、戦略
- ・高柳淳之介について
- ・明治～昭和初期における電車事故について
- ・浮浪外国人の発生経緯、彼らの人物像とやったこと
- ・百貨店の大衆化とターミナルデパート
- ・満鉄の都市再開発による現地住民との軋轢

交通を中心として国内外の歴史的発展についてゼミ員それぞれがテーマを定め研究します。

- ・テーマの動機と注目点

まだ細かいところまで書き上げられていないのではっきりとは言えませんが、国内の交通網（主に鉄道）による国の発展、それが諸外国とつながるようになりそこで新たにどんな問題が生まれたのかといった、全体の流れが感じられる研究になるようにする予定です。

# 三嶋恒平研究会

・ブース設置場所

南校舎 3 階 431 教室

・パート名とテーマの概要

パート名は「酒造が歴史やストーリーを伝える英語版ホームページを開設することは、海外輸出を増加させるのに有効なのか」。テーマの概要としては、国内需要の低下に苦しむ日本酒業界が海外輸出を促進させるための施策について考える。なかでも海外輸出とホームページの関係に着目した。

パート名：ブルーオーシャン戦略による脱コモディティ化とシェアの拡大～日系筆記具メーカーの事例から～

テーマの概要：私たち 3 班は「日系筆記具メーカーの国際展開」というテーマで論文を執筆しています。少子化やデジタル化といった社会変化に伴い、近年日本における筆記具の需要は減少傾向にあります。一方で、海外における筆記具市場は今後拡大する見込みがあり、実際に筆記具の輸出金額はアジア地域を中心に急増しています。以上の傾向から、今後日本の筆記具メーカーはアジア市場を中心に海外売上比率を高めるべきであると判断し、本稿ではそのための具体的な施策を考えます。

パート名は、「日本のトラック輸送産業におけるダイナミックプライシングの導入～アメリカをもとに～」である。2024 年問題が有名なトラック輸送産業。この人手不足が激しい業界において、仕事の魅力向上のために賃金の向上は必須である。その中で、解決策としてダイナミックプライシングの導入が有効と考え、ダイナミックプライシングが導入されているアメリカのトラック輸送産業と比較して考察していく。

・テーマの動機と注目点

テーマの動機としては、日本の国酒としての地位を持ちながら国内需要の低迷に苦しんでいる日本酒業界に問題意識を持ったため上記のテーマを設定した。国内需要が低下する一方で海外輸出が着実に伸びている。海外輸出には日本酒の情報を正確につたえることが重要だということが先行研究で明らかになったため、日本酒輸出とホームページの関係性に注目した。

私たち 3 班が「日系筆記具メーカーの国際展開」というテーマに着目した動機は、少子化やデジタル化を中心とした社会変化の影響を受けている筆記具業界を扱うことで、同様な課題を抱えている他業界への示唆を得ることができると考えたからです。また、本稿の注目点は消費財の代表例である筆記具の製品戦略を示すことで、低価格競争が激しいアジア市場における戦略的提言を行っている点です。低価格競争に着目した先行研究の多くは商品単価の高い耐久消費財を調査対象としていますが、私たちは「商品単価の低い消費財では高価格や高付加価値によるブルーオーシャン戦略が有効である」という仮説を立てました。

トラック輸送産業に着目した動機は、我々の生活を支えるこの産業が苦境に立たされているからである。現状のままだと、2030 年には 35%のものが運べなくなる。この現状を打破したいと考えたのだ。本稿の注目点は、輸送量のピークについて定量的な分析を行い、ダイナミックプライシングを提案している点だ。ピークに関する定量的な分析を行うことで、提案内容に説得力を持たせている。

# 山田浩之研究会

・ブース設置場所

南校舎 2 階 422 教室

・パート名とテーマの概要

- 1,  
パート名「発展途上国において、停電が企業行動に与える影響」  
テーマの概要；世界銀行の「Enterprise Survey」のデータを用いて、途上国における停電が企業の経済活動に与える影響を、固定効果を含めた操作変数法を用いて推定する。
- 2,  
パート名「カンボジアにおける農協の重要性」  
テーマの概要；農協の有無が米の価格に与える影響について、傾向スコアマッチングを用いて推定する。
- 3,  
パート名「カンボジア人の健康意識と体型について」  
テーマの概要；主に食生活を中心としてカンボジアの健康意識が彼らの体型にどう影響を与えているかを分析する。

・テーマの動機と注目点

- 1,  
テーマの動機と注目点；ゼミのスタディツアーで向かったカンボジアで、夕食中に停電を経験し、日本ではあまり見ない停電という事象により現地の経済は影響を受けているという風を感じた。それを検証するために、世界の途上国の平均的な停電による企業活動への影響を調べることは意義があることだと考えた。特に、その推計にあたって固定効果を含めた操作変数法を使用し、操作変数として企業が電力へのアクセスを確保するために賄賂を要求されるかどうかを利用していることが特に注目する点である。
- 2,  
テーマの動機と注目点；  
カンボジアへの訪問において、クボタ農機の皆様から現地での農業についての話を伺い、農協が多方面に影響を及ぼしている点が興味深いと感じた。そのため、それについてカンボジアの国勢調査や家計調査をもとに、傾向スコアマッチングを用いて検証する。
- 3,  
カンボジアに訪問した際、栄養教育の機会がなく、お腹を満たすためにのみ食事を摂るケースが多いことを学んだ。このような食事に対する意識をはじめとして、喫煙や飲酒などさまざまな健康意識が彼らの体型にどのような影響を与えているかを考える。